

2025 神戸大学（前期）英語 概評

出題分析		
試験時間 80 分	配点 125 点*	大問数 4 題
分量（昨年比較）〔 減少 同程度 増加 〕		難易度変化（昨年比較）〔 易化 同程度 難化 〕
<p>【概評】</p> <p>今年の神戸大学の英語は、昨年同様、長文読解 3 題と自由英作 1 題という大問 4 つの構成であった。長文読解は、設問種別も例年通りで、空所補充選択や同義語句選択、記述式の下線部和訳・内容説明などが出題されている。今年は、記述問題が少し減少したようである。また、字数指定のある内容説明問題が昨年に続き出題された。自由英作は、このところ取り上げられることも多いソーシャルメディアに関連した内容を述べるというものであった。</p>		

※学部により異なる。詳細は募集要項参照。

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	長文読解 「日本の月面探査」 ○ 語数：599 語 (昨年) 647 語	JAXA の「小型月着陸実証機」における高精度着陸の意義と今後の展望について述べた文章。問 2 の和訳は、合格点を取るのには難しくないが、満点を取るのには難しい。注もある precision-landing technology が無生物主語になるので、訳に注意したい。問 5 の内容一致文選択は、消去法を用いれば、正答にたどり着きやすい。	標準
II	長文読解 「長寿革命」 ○ 語数：570 語 (昨年) 621 語	健康で長く生きることに関連する研究を紹介した文章。問 1 の説明問題は第 1 段落の内容を踏まえて記述する。問 3 の和訳で This shift は「ただ長生きすることだけでなく、健康寿命を延ばすという考え方の転換」という longevity revolution の移行を表すが、本文全体の趣旨を踏まえる必要があり、高い読解力が求められる。	やや難
III	長文読解 「クリスマスを彩る」 ○ 語数：673 語 (昨年) 572 語	実家でクリスマスツリーの飾り付けに手こずる主人公とその姉の会話文。内容自体は理解しやすかった。問 3 の persistent は、性格描写にとどまらず「頑張っている」ということに言及したい。問 4 の和訳では upgrade の目的語が省略されているが、 the furniture が文の後半で初めて登場することから、ここでは the furniture ではなく身の回りのもの全般が目的語にあたると思われる。	標準

設問別講評			
IV	自由英作 (1)「SNS を使ってニュースを知る人の割合」 (2)「SNS を使ってニュースを知ることの是非」	(1)は、5 つの各ソーシャルメディアをニュースを知る手段として利用する人の割合をグラフで示しており、その中から 2 つの媒体を取り上げ、2020 年から 2023 年の利用率の増減を説明する問題。大きな差があるものを選んだ方が書きやすい。(2)は、ソーシャルメディアを使ってニュースを知ることの是非が問われている。60 語程度で書くという指定から、理由は 2 つ書くのが望ましいだろう。	標準

設問構成（設問数・形式・内容）												
大問番号	設問数	選択式					記述式					
		空所補充	同義選択	内容把握	内容一致	その他	和訳	内容(理由)説明	指示語指摘	英訳	自由英作	その他
I	5	1	4	1	2/6		1					
II	4		4		2/6		1	1				
III	4	4	3				1	1				
IV	2										2	

※「選択式」および「記述式」の欄の数値は、各設問内の小問数を表す。ただし、内容一致については、正答数/選択肢数を表している。

合格のための学習法
<p>本格的な記述問題を備えた読解・英作文を出題する神戸大学の英語入試で合格点をとるには小手先のテクニックに頼ってはいだめだ。まず 1 学期の早い時期に体系的な基本文法を理解しながら身につけよう。そしてそれと同時に、辞書を引きながらじっくり英文を読み、書く訓練を始めなければならない。辞書が使えなければ英語の力を伸ばすのは難しい。その際に重要なのはゆっくり時間をかけて勉強することである。決して速読練習などをしてはならない。速さよりも正確さ、量よりも質である。ゆっくりでも正確に読めるようになれば、スピードや量は後からついてくる。また毎日こつこつ単語帳・熟語帳をやることも忘れずに。日々の地道な努力に楽しみを見いだせる人間こそが、栄冠を勝ち取ることができる。</p>